

復旦書局起序注
一月四十五
以五

特別
14
1919
558



176823

復旦書院藏

明治四十五年一月以降



一月元日

物所、大橋のしり市の電車一日も
 死に、あつた道とともて、結果人
 力車、物、あつたし、おれ人車
 此情、七、輪七、あつた、あつた、あつた
 中、年、地、あつた、あつた、あつた、あつた
 は、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた
 と、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた
 一、あつた、あつた、あつた、あつた、あつた

ある年、年々、繁るる、数々の減、
漸く、若く、死を、心、一、現象、と、
き、
事、
川、
川、

二〇
雨、
く、
各、

河内

三十、
二、
此、
の、
既、
入、
原、
の、
烈、

二〇

河、

舟に書を携へて、近年年々入るる
と出するの多かりて、而して思ふに
金七、八、九、十、と云ふ、さういふ
りりる、十、十、と云ふ、思ふに、
ある、ある、ある、と云ふ、思ふに、
物と辨る、物と辨る、物と辨る、
現の、現の、現の、外、外、外、
賢者、賢者、賢者、賢者、賢者、

四

舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、
舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、
舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、
舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、
舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、

東橋原

舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、
舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、
舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、
舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、
舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、
舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、
舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、
舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、
舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、
舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、

五

舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、
舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、
舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、
舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、
舟に、舟に、舟に、舟に、舟に、

う納せしむたし、終るる高きを功に
二三日の身重を獲、湖時、英者、
等々、細路の申色、主之言り、古爾
然一方品因池おを購あて、くも、
高勝義彦を刊り、金出、版、
代、四、十、四、の、終、り、一、の、心、
物、を、日、加、り、年、十、二、千、枚

二二〇

雨は、花、の、加、り、子、も、も、の、花、の、木
ら、作、る、の、并、飲、こ、ま、る、加、り、を、心、
杉、枝、の、押、さ、も、を、お、り、ま、け、
双

東林原

魚、を、し、る、魚、出、来、り、的、重、を、付
あ、を、沸、け、し、湯、の、流、動、を、と、高
て、く、る、花、代、の、子、を、守、る、
如、く、ま、る、也、有、梨、瓜、也、

七〇

風、の、吹、き、も、中、に、入、り、や、崎、を、子、の、付
こ、り、由、を、な、る、言、ひ、し、ま、り、ま、り、
種、村、宗、の、神、宗、の、宗、宗、宗、宗、宗、
井、中、一、次、子、宗、宗、宗、宗、宗、
之、中、を、宗、宗、宗、宗、宗、宗、宗、
者、の、の、妙、法、宗、宗、宗、宗、宗、

外出中、高木、山、寺、池、

六

明、高、前、の、早、宿、留、中、子、：、松、を、聖、影、
拜、戴、式、あり、と、祈、く、由、事、力、以、理、整、
と、事、(、湖、畔、に、美、を、こ、な、り、り、未、代、
四、乃、の、う、ち、の、由、事、内、に、
溪、の、畔、を、高、く、し、十、年、の、尾、林、竹、
園、親、し、し、新、田、の、あ、ま、ゆ、成、
ふ、又、刻、を、一、中、生、見、好、に、松、け、る、早、
福、中、下、云、の、は、り、年、の、あ、り、に、松、
杉、松、の、寺、双、魚、池、の、歌、而、志、意、

東橋風

二回す、

九

の、所、早、宿、永、井、(、洞、流、(、山、寺、)、寺、あり、
也、こ、こ、出、跡、の、う、ち、松、を、刊、え、と、事、
り、の、中、下、の、口、行、り、松、の、松、
根、成、る、松、の、松、を、事、す、十、の、松、村、
香、を、麻、布、を、ゆ、め、り、松、の、松、を、
さ、り、け、松、の、山、寺、の、松、を、刻、意、
と、事、を、ゆ、め、り、松、の、松、を、
松、の、松、の、松、を、松、の、松、を、
松、の、松、の、松、を、松、の、松、を、

お中へ到るに書を見物より望

十

明、書物ありお中へ見るをさす
まにち申念ふ事あり、高木とゆふ
いふ七、夏、風、鎮、をい、高、亭、に、飲
し、四、角、に、平、山、を、ゆ、い、林、石、山、の、花、を
峯、故、文、に、胡、蝶、を、ま、り、し、る
村、田、生、海、女、ゆ、り、言、上、向、船、杖、を、い、心
九、子、又、言、し、い、つ、つ、海、島、中、り、ま、物、を
婚、の、外、出、中、の、島、遊、遊、を、茶、人、事
況、亦、二、功、刊、の、金、下、四、十、二、冊、も、

東葉風記

高橋義彦の伝説、中、吟、桂、香
古を興ふ、平山、中、の、書、高、山、骨、蓋
代七十五、山、神、の、

十一

明、行、村、集、八、大、江、乙、鹿、つ、か、山、茶、人、事
治、和、の、茶、主、西、打、作、百、と、ゆ、い、る、伊
原、及、に、お、く、高、古、村、を、い、る、ま、り、日
登、板、古、と、い、ふ、ま、り、城、内、村、花、を、い
海、出、先、と、い、ふ、ま、り、山、の、花、を、い
心、事、も、ま、り、高、古、村、を、い、る、ま、り、日
田、神、集、の、神、り、傳、神、次、入、を、い、る、

五十四日... 示... 報... 改... 謝... 勸...

十二

時... 春... 日... 電... 印...

東...

日... 山... 井... 回...

十三

時... 日... 皆... 與...

寄る西村所をねき刊り会才
三期出版物に抗議を為す、江戶
方面をこし解すをいふをいふ、江戶
邊大とて言ふをいふ、木打
条市外二三日の方状来る、其代
四、嵐浪の西村代二十四交付
す、お田留次、お田留高きまぬり
とて耳吉あるも、真時米田中出京
梨果をいふ

十四日

あつ、お田留高きまぬり、お田留高きまぬり

不、寄る西村所をねき刊り会才
三期出版物に抗議を為す、江戶
方面をこし解すをいふをいふ、江戶
邊大とて言ふをいふ、木打
条市外二三日の方状来る、其代
四、嵐浪の西村代二十四交付
す、お田留次、お田留高きまぬり
とて耳吉あるも、真時米田中出京
梨果をいふ

時勢系功

十五

明高祖、御政錄初其、れ在の御を
め給きと、少御給仕考、古史を、か
か笑子、木打茶市、木坊、
式況中又、ま、
元、
政、
孔職、
古史と、
戸、

頭
横
原
製

古物一軸を、
仕拂、
信、

十六

吹、
二、
宮、
と、
山、
あ、

市在東ノ市五云ニ付也 麻布(四
リノ市) 陸(五) 山(六) 未(七) 山(八) 基(九)
千(十) 者(十一) 版(十二) 昔(十三) 丸(十四) 海(十五) 尾(十六) 浦(十七) 字(十八) 嶋(十九)
本(二十) 鈴(二十一) 井(二十二) 乙(二十三) 亥(二十四) 乙(二十五) 巳(二十六) 巳(二十七) 巳(二十八)
戌(二十九) 子(三十) 丑(三十一) 寅(三十二) 卯(三十三) 辰(三十四) 巳(三十五) 午(三十六) 未(三十七) 申(三十八) 酉(三十九) 戌(四十)

十九日

所、石川松江寺より中山ノラツテ洗粉の
以(一) 之(二) 以(三) 花(四) 活(五) と(六) 為(七) さん(八) こと(九) を(十) 活(十一) 子(十二)
即(十三) ち(十四) 所(十五) 懐(十六) と(十七) 送(十八) ち(十九) ち(二十) 申(二十一) 也(二十二) せ(二十三) し(二十四) 也(二十五)
房(二十六) 内(二十七) 申(二十八) 事(二十九) 田(三十) 能(三十一) 封(三十二) 不(三十三) 偏(三十四) の(三十五) 携(三十六) 書(三十七) を(三十八)
示(三十九) 可(四十) 預(四十一) り(四十二) ます(四十三) 故(四十四) 乙(四十五) 亥(四十六) 申(四十七) 出(四十八) 京(四十九)

東洋文庫

と(一) 報(二) し(三) ます(四) 方(五) 改(六) 抄(七) の(八) 要(九) 大(十) 見(十一) ぬ
物(十二) も(十三) の(十四) ち(十五) 一(十六) 書(十七) 原(十八) 正(十九) 春(二十) 遊(二十一) ち(二十二) 抄(二十三)
状(二十四) も(二十五) の(二十六) ち(二十七) 一(二十八) 大(二十九) 略(三十) 之(三十一) 湯(三十二) 次(三十三) 抄(三十四) 万(三十五) 川(三十六)
ぬ(三十七) の(三十八) ち(三十九) 一(四十) 裁(四十一) 何(四十二) こ(四十三) け(四十四) 世(四十五) こ(四十六) り(四十七) ち(四十八) 申(四十九) ぬ(五十)
信(五十一) 子(五十二) 申(五十三) 事(五十四) 信(五十五) 留(五十六) 一(五十七) 書(五十八) を(五十九) ぬ(六十) ち(六十一) 申(六十二) ぬ(六十三)
を(六十四) ぬ(六十五) ち(六十六) 申(六十七) 事(六十八) 信(六十九) 留(七十) 一(七十一) 書(七十二) を(七十三) ぬ(七十四) ち(七十五) 申(七十六) ぬ(七十七)
こ(七十八) り(七十九) ち(八十) 申(八十一) 事(八十二) 信(八十三) 留(八十四) 一(八十五) 書(八十六) を(八十七) ぬ(八十八) ち(八十九) 申(九十) ぬ(九十一)
を(九十二) ぬ(九十三) ち(九十四) 申(九十五) 事(九十六) 信(九十七) 留(九十八) 一(九十九) 書(一百) を(一百一) ぬ(一百二) ち(一百三) 申(一百四) ぬ(一百五)
ぬ(一百六) の(一百七) ち(一百八) 申(一百九) 事(二百) 信(二百一) 留(二百二) 一(二百三) 書(二百四) を(二百五) ぬ(二百六) ち(二百七) 申(二百八) ぬ(二百九)
ぬ(三百) の(三百一) ち(三百二) 申(三百三) 事(三百四) 信(三百五) 留(三百六) 一(三百七) 書(三百八) を(三百九) ぬ(四百) ち(四百一) 申(四百二) ぬ(四百三)
ぬ(四百四) の(四百五) ち(四百六) 申(四百七) 事(四百八) 信(四百九) 留(五百) 一(五百一) 書(五百二) を(五百三) ぬ(五百四) ち(五百五) 申(五百六) ぬ(五百七)
ぬ(五百八) の(五百九) ち(六百) 申(六百一) 事(六百二) 信(六百三) 留(六百四) 一(六百五) 書(六百六) を(六百七) ぬ(六百八) ち(六百九) 申(七百) ぬ(七百一)
ぬ(七百二) の(七百三) ち(七百四) 申(七百五) 事(七百六) 信(七百七) 留(七百八) 一(七百九) 書(八百) を(八百一) ぬ(八百二) ち(八百三) 申(八百四) ぬ(八百五)
ぬ(八百六) の(八百七) ち(八百八) 申(八百九) 事(九百) 信(九百一) 留(九百二) 一(九百三) 書(九百四) を(九百五) ぬ(九百六) ち(九百七) 申(九百八) ぬ(九百九)

肺炎に罹りしをち改大史のあ三月
迄迄の決す

二十の

時、小崎の娘は、結縷、自らを
以て祝儀ををせり。其の由を
知りて、其の河内を以て董、
此の如く、中流の義、
ありし由、折るる、
り、終木、
と、其の如く、
時、二、

東素良

こゝに、
部、
中、
此、
有、

二十一の

時、
心、
董、
同、

明・揚・井・所・由・り・松・浦・好・方・を・研・究
す・ま・し・あ・ら・ま・た・松・浦・の・氣・を・極・め・る・也
行・く・の・代・の・(文)・を・経・つ・て・を・る・
並・未・免・ち・し・事・勿・衣・敗・摺・直・入
而・集・を・知・る・
實・花・路・が・千
を・出・し・示・し・す・の・意・
観・こ・を・と・す
り・松・を・出・し・し・み・お・さ・
唐・の・面・を・あ・ら・梅
産・の・路・を・ら・あ・ら・る・心・の・路・を・と・え
あ・ら・め・め・お・き・る・
建・設・走・の・風・井
画・路・が・あ・ら・る・と・し・ま・く・
松・の・路・を・兼
の・道・を・と・す・と・し・ま・く・
三・浦・山・向・事・物・を・あ

松・浦・好・方・を・研・究
す・ま・し・あ・ら・ま・た・松・浦・の・氣・を・極・め・る・也
行・く・の・代・の・(文)・を・経・つ・て・を・る・
並・未・免・ち・し・事・勿・衣・敗・摺・直・入
而・集・を・知・る・
實・花・路・が・千
を・出・し・示・し・す・の・意・
観・こ・を・と・す
り・松・を・出・し・し・み・お・さ・
唐・の・面・を・あ・ら・梅
産・の・路・を・ら・あ・ら・る・心・の・路・を・と・え
あ・ら・め・め・お・き・る・
建・設・走・の・風・井
画・路・が・あ・ら・る・と・し・ま・く・
松・の・路・を・兼
の・道・を・と・す・と・し・ま・く・
三・浦・山・向・事・物・を・あ

久し振うとて時方あると云ふ
松・浦・好・方・を・研・究
す・ま・し・あ・ら・ま・た・松・浦・の・氣・を・極・め・る・也
行・く・の・代・の・(文)・を・経・つ・て・を・る・
並・未・免・ち・し・事・勿・衣・敗・摺・直・入
而・集・を・知・る・
實・花・路・が・千
を・出・し・示・し・す・の・意・
観・こ・を・と・す
り・松・を・出・し・し・み・お・さ・
唐・の・面・を・あ・ら・梅
産・の・路・を・ら・あ・ら・る・心・の・路・を・と・え
あ・ら・め・め・お・き・る・
建・設・走・の・風・井
画・路・が・あ・ら・る・と・し・ま・く・
松・の・路・を・兼
の・道・を・と・す・と・し・ま・く・
三・浦・山・向・事・物・を・あ

前中橋あり、地敷せらる。中橋の
岸人しこしこ取出来し後のれ然
事あり。いぬしこいぬしこ行く
道は道常道某の件つるや元酒
をりし物よりいぬしこ

二十九日

晴。福島長山とて古村来る。赤木以
其名来る物。野村新の、二る内
全換係株万の内五十引元、更
みする内約千一増四義一（念ち）
入。期ぬ三月其是朝今をり

車夫との甲乙あるが、木黄野の甲
穴日記を記さる。またある。水
八又新の役社中流をさ方の計敷
に換す。山本以士大のらも本村義
寄の此高各改列帳、流りまの件を云
えたり。午たんと知るしぬる。いぬし
ぬる物と見、赤木白と名の物、あ
るに次ししとあきなる物、その件
来る者あり。四のしこしこ行く
文之流を記す。その年のもり某某：竹
うたをともくし、今迄に和流の出し
物を清く、管内家の細念いをなげ

林内母を校倉とす件 服印を主とす
口以多す左とすと其を主とす現妻久
著す中子法とす、四のりしと桑地新
朝、校友大方云とる事、海津ヤ
中由居子新所成久河由忠流洋の
中朝多下崎半次郎一支配とす切
の格及又方り上とる中、一、早大出
代湖士と記、序上、格中崎流
深大隈任の流流とす十の家、切
入る、抱、流、弟、田、小崎、未、二人、と
来、事、と、す

東洋同

〇二月

一日

時、古、白、子、道、千、年、三、者、名、物、珍
あり、自ら、千、社、共、孔、探、を、二、枚、貸、付
す、三、浦、堂、の、山、田、所、也、才、多、く、山、田
に、持、り、流、中、を、又、年、亦、三、安、田、集、し
中、流、者、也、と、交、付、す、日、取、其、中
と、見、る、と、其、流、来、り、中、田、所、在
其、流、中、也、二、方、本、と、流、中、也、月
其、流、と、見、る、作、伯、母、即、其、流、也、其、高
景、友、碑、又、研、究、を、終、る、と、又、知

杜湖村事功の... 董と念親... 事功... 杜湖村... 事功... 杜湖村... 事功...

二日

雨、古川湖... 事功... 杜湖村... 事功... 杜湖村... 事功...

東海道

事功... 杜湖村... 事功... 杜湖村... 事功... 杜湖村... 事功...

三

細書... 事功... 杜湖村... 事功... 杜湖村... 事功... 杜湖村... 事功...

山の所の朝倉の毒三井の事は元々の
の味を垣越え、大石親白又である
和の茶の古に古を日かす。いかに
今般事一統をえら。訓時英を
いかにす。いかに終久月をいかに
洋言子母如く作ああめ現ある。新
ゆか人いかにし。今をいかにいかに
折るの古現ある。

馬

丙。唐の馬を折る。龍一古意のつお
をいかに。折井印沈。古をいかに。折

折下中馬をえら。東部の折る忠
一。いかに。折の折の折の折の折の折
小崎のいかに。折の折の折の折の折の折
高下をいかに。折の折の折の折の折の折
いかに。折の折の折の折の折の折の折
折の折の折の折の折の折の折の折の折
折の折の折の折の折の折の折の折の折

二

折。折井印沈。折の折の折の折の折の折
折の折の折の折の折の折の折の折の折

す元々の海をゆくを根拠す。
此の書はたゞの事柄物を記す。以て
其をと呼び。吾も引かん。十四日
信守の地。車儀。城ありし。其方
ち。正午。其の島と。谷。伊勢の
。相。平。お。と。す。死。者
を。見。早。く。下。

つら
明。羽。野。河。松。井。印。流。の。方。状。と。指
送。り。車。儀。季。次。保。善。地。見。方。状
と。見。り。香。乃。沙。り。翻。る。五。三。

付。兄。方。状。と。き。す。入。村。一。方。印。
海。方。も。高。く。京都。の。表。也。松。本。を
言。ふ。事。あり。孩。入。る。皆。表。す。る。事。
江。部。遠。夫。と。表。す。善。押。開。放。の。道
知。者。と。知。り。る。事。死。病。と。云。ふ。
此。の。偶。々。四。代。亮。外。事。柄。と。云。ふ。事。
と。と。か。か。し。く。凡。事。あり。と。云。ふ。
み。マ。レ。ケ。ン。を。取。用。す。

九の

明。大。江。表。之。の。事。知。る。日本。の。代。中。の
見。る。の。件。の。事。柄。お。よ。し。事。あり。度。

田事。保元平治。既一本。藤。小。價。之。
十五。四。の内。七。日。拂。流。者。あ。る。若。寺。中。
の。好。う。し。の。ら。二。三。の。集。う。人。ま。あ。り。し。病。
氣。あ。り。都。合。を。し。す。人。し。り。方。か。い。
道。の。ゆ。を。り。が。す。八。日。の。松。井。と。り。お。
あ。ら。の。好。う。者。あ。り。古。流。者。あ。入。し。者。
此。を。と。り。美。術。を。花。う。ら。及。友。川。本。三。中。
月。性。と。左。田。の。流。の。い。玄。瑞。往。後。者。
是。を。生。推。の。寺。亦。す。流。子。若。海。寺。の。
付。あ。る。と。し。信。王。の。又。由。を。色。略。血。終。
日。孝。中。と。し。と。し。

西清河

十。

明。承。治。の。快。床。を。拂。ひ。田。中。と。り。
年。の。好。う。者。あ。り。古。流。者。あ。入。し。者。
我。紹。保。元。平。治。の。山。侍。後。又。是。
時。流。の。ゆ。を。り。が。す。八。日。の。松。井。と。り。お。
心。を。し。其。者。あ。り。と。り。河。本。三。中。
リ。左。田。の。流。の。い。玄。瑞。往。後。者。
年。の。好。う。し。の。ら。二。三。の。集。う。人。ま。あ。り。し。病。
氣。あ。り。都。合。を。し。す。人。し。り。方。か。い。
道。の。ゆ。を。り。が。す。八。日。の。松。井。と。り。お。
あ。ら。の。好。う。者。あ。り。古。流。者。あ。入。し。者。
此。を。と。り。美。術。を。花。う。ら。及。友。川。本。三。中。
月。性。と。左。田。の。流。の。い。玄。瑞。往。後。者。
是。を。生。推。の。寺。亦。す。流。子。若。海。寺。の。
付。あ。る。と。し。信。王。の。又。由。を。色。略。血。終。
日。孝。中。と。し。と。し。

リ、六つ板が厚い古紙切ると法
二枚未だう也。是を包と紙し、
の手筒四喜、変る色をも、
市士の指板踏出す

十一の

ぬ、紀元一印、高橋文次か、
田所、
主及す、
一とちの

徳川御

斗の、
り、
とて、

十二の

時、
の、
か、
と、
五、
早

本年十月、別三ヶ年満三十一年、
うき式典を有る、是に、
の、
く、

十三日

明、
く、
あ、
以、
以、
の、

東洋

全、
其、
子、
律、
結、
来、

十四日

皇、
一、
即、
没、

勤まう余の法流をもとむ即ち二三の
女は信法を有りて事しれせしむらひ
然る所より物を見る。夢ありありの
才あるも余も余も又長と能く選る
の致すも余も活法を教ふ。事凡そ
口は生余下信法つあり吉事あり。物
海泡りも本村跡志のあり信法
うまを信ま。おろすも余も

十月

終る降雨、ま前すことあり定ま
半道山を公海印と云ふの存す

見す、西野作らるる事あり、茶
あお丸らるる者をぬら、登坂す
もあやうらるる事あり、二色探
道行りて一色字あり、同く
程も、四のし、英むと合して
い。

十一月

由律と云ふ事あり、信法を
何れもあつた事を見す、
常ねるをさるる、山殿部の
を捨る、大木陰母の計り、大木の

山の卯くぬくは年々あつて

十七

昨、唐の皇朝をたふすと雖も、又頃
美、唐の皇朝をたふすと雖も、又頃
十のほどをたふすと雖も、又頃
印の皇朝をたふすと雖も、又頃
治、唐の皇朝をたふすと雖も、又頃
下、唐の皇朝をたふすと雖も、又頃
親、唐の皇朝をたふすと雖も、又頃
相、唐の皇朝をたふすと雖も、又頃
ま、唐の皇朝をたふすと雖も、又頃

日行

十八

明、唐の皇朝をたふすと雖も、又頃
昔、唐の皇朝をたふすと雖も、又頃
田、唐の皇朝をたふすと雖も、又頃
忠、唐の皇朝をたふすと雖も、又頃
り、唐の皇朝をたふすと雖も、又頃
古、唐の皇朝をたふすと雖も、又頃
不在、唐の皇朝をたふすと雖も、又頃
矢、唐の皇朝をたふすと雖も、又頃

十九

晴、大石理白を三有由取事、
おん、高田より、首置骨董を
持参す、京都谷村一古り、
を贈る、ほゆる、是を
上、件を返渡し、
、相、法、集、の、者、
人、金、と、行、

二十

好、春、現、又、次、
中山の、
川本三

大石理白、
代、
を、
を、
を、
事、

二十一

所、梅井市、
是、
年、

件二有法取教正記に關する後集
を協撰する、海をこゝ或は河川本三
印にらしむ事多きを、五島代をかく物と
貯る

廿二日

明治廿二日、夕方少くも、赤橋をとお
り、車を見、信元を流死、残を拂
ふ、後二節、同一天、印、文、
出、印、英、福、時、事、治、登、及、事、
を、え、と、中、央、新、報、の、石、井、を、あ、み、
る、と、尾、形、次、事、と、文、藝、壇、会、の、人、を、
上

の、事、と、云、と、云、事、を、我、國、
念、由、の、事、を、に、於、て、三、十、年、
式、典、半、の、事、を、一、回、を、
物、事、の、事、と、云、

廿三日

明治廿三日、夕方、赤橋をとお
り、車を見、信元を流死、残を拂
ふ、後二節、同一天、印、文、
出、印、英、福、時、事、治、登、及、事、
を、え、と、中、央、新、報、の、石、井、を、あ、み、
る、と、尾、形、次、事、と、文、藝、壇、会、の、人、を、
上

美新宮に、主命已晴方と信の
記と婚の、美木と合しておろし
ゆつゝ、外出中、中村は此中事
あり、

二十回

晴、中村は午の、おまゝ一、其：松
別、在、扱、え、と、乳、の、家、と、出、ん、あ
の、傳、車、体、と、行、く、九、的、中、村、兼、と、松、
原、四、と、連、ん、立、ち、た、出、る、十、二、的、二
十、分、一、の、中、：着、ち、く、中、村、お、花
：花、を、中、村、一、如、年、は、時、家、の

と、い、く、お、花、は、松、を、あ、る、い、の、多、し
午、お、の、お、花、と、一、言、河、に、送、へ、上
流、二、三、十、下、瀬、ら、川、の、生、也、お、花
の、風、光、可、也、ま、く、梁、の、お、生、も、お、
：お、花、の、お、花、と、い、く、を、あ、る、い、
と、い、く、お、花、は、車、あ、る、を、推、め、く、ま、く、
頭、を、お、花、を、放、法、十、二、的、お、花、の、お、
す、お、花、に、候、お、花、と、い、く、お、花、を、お、
ら、し、お、花、を、あ、る、お、花、を、お、花、を、
お、花、の、お、一、二、を、お、花、と、い、く、お、
お、花、を、あ、る、お、花、を、あ、る、一、二、の、人
お、花、を、あ、る、お、花、を、あ、る、お、花、を、

持を寄るん更な分云々付事終末
の川本に云々山内山内本末功子
故を及子致を元々山内山内
好る一東流物おもを具し
あふ豊川に云々三月二日
いふあを信する案内事あり平和
らと十年者あり

二十九日

終る切南、豊川に云々在方以砂り成故
と郵者もあふた十田崎長を
投る十の洞明：美むと云し

はしを及す物を見る、印列
此の伴る小文に云々、
出来、せ初胃屋云々、
命あり

三月

一日

雨、川本に云々し者、
文部省、
とれ、文科之の、

す、文印次を福原の寺と題し、大江し、疾つともし、其寺ありし、平紙切
符し、件より、甲中、字一、字に、寺と
外、上の字の、流車、と、投し、と、方、改、と、如く
車中、高山、圭三、と、合、字、十、時、と、合、
巻、に、流、と、寝、と、乳、と、

七の

西、定、刻、方、ぬ、と、書、り、山、本、也、士、の、所、
係、廣、し、お、井、と、記、き、流、ぬ、と、お、合、
を、あ、ま、角、田、流、と、ぬ、り、と、流、の、を、
ぬ、り、と、流、と、記、る、お、乳、と、し、と、と、決、

す、流、の、田、の、成、於、山、手、を、義、と、書、り、と、ぬ、し、
し、本、書、云、の、流、合、り、ホ、二、切、符、書、し、
件、と、ら、り、す、字、の、あ、お、乳、の、り、と、寺、と、ぬ、
り、り、的、山、本、お、井、と、記、流、ぬ、と、ぬ、
こ、の、あ、お、と、ぬ、り、す、関、を、記、次、と、
却、出、え、と、ぬ、り、す、お、合、と、ぬ、り、出、版、印、と、
流、合、ぬ、と、記、し、り、す、寺、新、為、お、六、個、別、
を、お、合、り、や、井、お、合、り、と、不、割、松、を、り、事、流、
関、係、記、次、と、ぬ、り、す、寺、お、合、上、の、お、合、と、
り、し、と、ぬ、り、す、初、田、十、巻、を、り、山、崎、垣、四、
印、お、合、り、五、印、と、ぬ、り、す、流、

報す。家世に甘き家のくいと
 小田山大臣と初めにおとどく
 賜被願の拙言を謝す。お七
 時早合の多かり。お七、お七、
 東京とてお七、お七、お七、
 お井、お井、お井、お井、
 油、油、油、油、油、油、
 他、他、他、他、他、他、

十一日

時、報す。家世に甘き家のくいと
 小田山大臣と初めにおとどく
 賜被願の拙言を謝す。お七
 時早合の多かり。お七、お七、
 東京とてお七、お七、お七、
 お井、お井、お井、お井、
 油、油、油、油、油、油、
 他、他、他、他、他、他、

陳橋原製

法、報す。家世に甘き家のくいと
 小田山大臣と初めにおとどく
 賜被願の拙言を謝す。お七
 時早合の多かり。お七、お七、
 東京とてお七、お七、お七、
 お井、お井、お井、お井、
 油、油、油、油、油、油、
 他、他、他、他、他、他、

中川鏡より中尾清をとり中井新三郎
 交り来る茶都將をとりと書状と
 別より中井新三郎の印と書状を賜ふ
 りぬ之紙美無暇居る少人団体の備
 後今も一箇の所打出流し余もわが
 止まらざりて取支印没事お務め合の
 準子倫と為すの公井貫一團考鏡
 業の親あしある也る洋りのいれり
 あらざる右に出んぬ出果るこころ
 といふ者状をもたし七謝する、美をこ
 ちとぬり、又別紙の作成結方席
 角田勤一印外二三人とす、支印合

通河津

四例にお終をみる、臨向大ぬ後援
 会とさすこと決し、お河清方後局
 承りて人を取らざりしとす、お河清
 件と決すぬと十二の無んとす

十四の

明、お河清代とある、お河清の漸く起
 床四五の事案あり、お河清と流し出
 ん、お河清を流しぬ、お河清の事案を
 砂河、お河清の事案を、お河清の事案を
 像をぬき、お河清の事案を、お河清の事案を
 甲寅、寅二木、午年、お河清の事案を、お河清の事案を

本印士等のあはれ中、事流、安んず
ぬり、時を重し、砂河が、古風と
す、何れも、おの、山を、海に
へ、轉て、中座、初、開防、まを
え、た、七、的、二十、分の、多、り、汽、車、を
ゆ、き、と、進、こ、上、り、和、の、五、中、在、よ、山
崎、恒、の、す、保、を、も、ゆ、え、ま、す、未
也

十五

時、九、の、と、も、す、行、信、を、互、と、ゆ、を
七、天、川、春、を、ゆ、家、云、の、計、二、橋、も

石、河、岳、を、杉、山、元、克、其、他、冬、所、も、
十、數、の、の、身、者、も、さ、り、た、り、た、り、
下、め、を、見、よ、ま、る、向、を、ゆ、の、二、話、不、死
後、事、務、を、ま、り、う、り、明、治、の、男、ら、と、す
む、ち、と、桂、洲、村、牛、の、母、の、計、二、橋、も、
不、在、下、用、印、嘉、考、事、流、也

十六

景、公、實、十、之、以、毎、一、山、田、所、也、種、村、宗
八、石、川、松、河、事、流、十、下、の、春、後、其、の
後、田、杉、山、牛、島、と、文、的、松、合、事、二、の
子、如、と、閑、了、了、就、定、を、内、藏、事、流、也

又例保念に吊物と云ふ又柱脚打
に吊物といふ香典と雖も井上元
本按に石流す英布と謂ひ
く高ありと云ふ事、
古お代十二日北井、古向は
りり刻と云ふ事、
此美入と云ふ事、
素書京御控包在改
と云ふ事

十七

陳述

唯、而、素花山留里
刊の金の紙張を
り物を終る、
と云ふ事、
素花山留里
物終り、
上素花も
り終る事、
金、
素花山留里

小入江にあつと接して又の江合子力二
切あふ●のま行と托す、と相上の
平の表平壇この江の切合子力二
人とうもそ我の事切入出版印
と扱ひす

十八

而富、本向江ぬき報の供り事切
万改のま木をえらう、こちと扱ひ切
男身、こまゑの、切れこちと扱ひ切
打る、似りまの、有るまの、供り事切
石川、松江、葉、あ二と扱ひ、こまゑの、供り事切

定をあら、丁ら、かゝると扱ひ事切、
あお、おの、松江、大陽、こちと扱ひ事切、
切り、二、相、湯、春、一、五、こちと、午後、供り
扱ひ事切と、こちと、在、改、治、ある、こちと
らと、治、割、ぬ、切、と、扱ひ、事切、こちと
治、村、あ、美、あ、こ、ちと、扱ひ、事切、文、の、松
合、の、所、こ、竹、大、あ、井、弁、三、と、治、事切、
扱ひ、事切、こちと、あ、あ、あ、こちと、あ、地、又
治、印、こちと、刊、の、合、わ、こ、治、あ、あ、こちと
り、あ、こちと、あ、あ、あ、こちと、あ、あ、あ、こちと
あ、あ、あ、こちと、あ、あ、あ、こちと、あ、あ、あ、こちと
あ、あ、あ、こちと、あ、あ、あ、こちと、あ、あ、あ、こちと

明、毒塊、毒、大概、み、た、あ、き、れ、と、
す、大、以、と、な、つ、大、き、井、井、井、に、
支、束、張、此、分、と、厚、分、の、
と、ひ、の、中、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
節、節、節、節、節、節、節、節、
あ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
支、張、の、た、教、も、ま、ま、ま、
才、二、三、の、ま、ま、ま、ま、
及、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
輯、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

目録、述、如、ま、ま、ま、ま、
改、改、改、改、改、改、改、
割、割、割、割、割、割、割、
の、の、の、の、の、の、の、

念り

明、昆、昆、昆、昆、昆、昆、
了、了、了、了、了、了、了、
大、大、大、大、大、大、大、
地、地、地、地、地、地、地、
と、と、と、と、と、と、と、
も、も、も、も、も、も、も、

念の

而高、凡、朝事、其、終、其、未、め、と
推し、上、帝、の、光、を、え、る、高、木、と、之、を、
高、木、物、也、し、高、木、を、い、江、新、文、
然、も、も、も、相、合、の、家、に、投、す、り、
片、頭、高、木、と、之、を、出、預、え、念、七、次、部
と、流、す、小、田、路、桂、島、方、と、も、雪、舟、
幅、と、倍、り、え、る、大、々、井、路、と、文、
水、根、今、も、の、契、大、約、の、果、と、地、く、事、
念、七、

陰、出、版、印、が、能、土、屋、十、等、反、音、念

新、先、月、刊、の、件、事、決、校、反、建、坊

あ、た、り、一、身、上、の、件、事、
了、赤、星、休、七、朝、鮮、土、中、若、を、方、
一、才、こ、小、中、二、三、特、入、山、の、法、在、
、改、口、五、は、り、す、る、信、子、信、を、其、
七、あ、る、人、の、も、十、を、子、道、中、を、
体、校、さ、ん、が、冬、振、る、物、を、え、る、小、田、
元、迎、信、の、桂、道、こ、ち、に、振、る、有、
あ、人、の、津、の、一、高、木、の、器、
腕、高、木、係、と、す、き、形、
元、高、木、と、も、も、相、合、の、家、に、
カ、ト、出、来、る、信、子、を、念、七、
念、七、

口立者申事物、出版印：森井健治
と申事申事、合：折出、折の件を
根拠、今井一増四馬一：方を授
す、又、折義彦：方を授す

〇四月

一日
時、風、と、折出、めを付る、上、中、の、花、を
看、終、る、折、出、の、散、集、し、て、平、安、に
上、帝、の、御、花、を、授、し、て、世、物、を、見

し、く、し、て、折、出、の、花、を、授、し、て、世、物、を、見
る、を、折、し、し、る、を、折、打、す、折、

二の

時、折、出、の、花、を、授、し、て、世、物、を、見
る、を、折、し、し、る、を、折、打、す、折、
の、折、出、の、花、を、授、し、て、世、物、を、見
る、を、折、し、し、る、を、折、打、す、折、
折、出、の、花、を、授、し、て、世、物、を、見
る、を、折、し、し、る、を、折、打、す、折、
折、出、の、花、を、授、し、て、世、物、を、見
る、を、折、し、し、る、を、折、打、す、折、
折、出、の、花、を、授、し、て、世、物、を、見
る、を、折、し、し、る、を、折、打、す、折、
折、出、の、花、を、授、し、て、世、物、を、見
る、を、折、し、し、る、を、折、打、す、折、

引る如くのこと 國難を成し拵けり
しに倭兵兵に想ひ渡河橋と海
北を陸路十餘里何所花を以て
す 形くこと長橋に到る、こ、と大
段北端也着河原に於て特々麻
を設く、長さ五千餘りあるは
テントを設けしものなるは
ききりこの別を以て供花丈
着北端約一町官、白丁を著けり
人夫約二千一人、推して十分
九に著る勢、恩況志、修、群、修、
へて著る端、あるに、式、仕、表

東洋風

了んて是景、海、大、并、以、來、の、壯
觀也、と、ある、は、の、病、了

吾

明、と、紅、巾、帳、三、と、治、天、別、を、先、け
主、都、と、抄、く、抄、く、を、に、別、り、ち、ち、を
も、も、備、と、る、山、師、寺、同、一、と、義、也、
の、名、は、る、と、代、湖、士、女、師、也、と、い、ふ、
吾、也、倭、兵、の、奇、に、拵、て、く、と、疾、の、
行、と、物、事、に、決、す、終、り、は、勢、合、あ、い、
わ、め、る、重、拵、を、在、三、島、在、あ、る、に、
高、ゆ、と、せ、し、之、を、奇、り、と、と、ん、え、

梅苑のてきを山の手も花の色
まゝある也山手は術匠梅
林と植わると石 山の手も花の色
刻由也

六

墨のうしろ、と乳眠等漸く乳分
可也二三の元むとあつて、
文島給を蜀の國大陽を示す、
上の表を度給に列り、
磁器の山山流、
湖の美を人なりし、
湖の美を人なりし、

木と流のてきを山の手も花の色
流のてきを山の手も花の色
日原梅成馬坊

七

墨、山のてきを山の手も花の色
大浦秀南、
後、
杉山と流、
屯山、
と、
を

終る纏まじりハ三海峯殿とて来者
あり

十日

雨は晴、唐の至松来り、のり印刷
此の至後人等こゝに多し、自ら登りて
をえり、あきり、鹿二入る、
付多し、九二生長を、
来ハ丹、其休、来、
大は、信、
す、おじ、
と

陳徳風

十一日

晴、唐の至松来り、のり印刷
とて七、
中、
六、
お、
堀、
来、
既、
骨、
車、

謝文久とつあきき事母の楽は
七つ五浪三有波ぬの打んを
市部玉の履んをいれまき

十二の

晴堂の行打田原来功の
ゆめを思ひきとる英事と
ねらと出づしきもな
印甘他し件と高き
田杉山主義大さ
いふしきぬ根念
送さす、病中の念津ハ

吉ありし

十三の

晴、内子つね母由留座
朝年送る七し、国夫
い梅丸をいりち
身のいぬ、園子
高梅後花ヤ
みま、まき
さ、梅本左武
子さ座ま也服
後す、つらり
高此

いふにうらまへにゆきこはるに死す後
道路に死を極合す固き路し
を急して去り草木と紛れし方ね縁
高の身ゆきと命のきくふ、二味を甘
苦味と味を極く、道道の河あり
ア王おもしろ出来るか能本あり

十四

時、二三の事ありしに江都す
の地を云ふも、まゝを付るに
田舎も散束し草木と紛れぬ
難い實を手に飲んぬる女一ゆき

はあつてにその後、温文会
會式と考へ、今更々く家族と
清い事を、わが身命を四の
名に道ま、國内を散束し行ふ
の、其の事、絶えぬ散會あり

十五

高江印事、海任漸く清くす
属し、研に蓋出来、今何行打山
河は、大江に、交り、木あり、
の、真木山、流す、流、久須美、
八、年、この、五、十、四、日、

かきまきす、わらびの皮のうしろし余の族の
墓誌楊本二枚と銘する大巻本
本とすし其方あり

十方

明、同書録に於て此のく文の源流
に關する同書に所列の字を子え
こしと改してあらは其の字に關係
ある法政と銘するんを先づ
迄終りをもえ板所、此の所在
より、字の流を西片のり
ふん又不在、其の字を

大(同)書録に於て此の源流の所在
を一説として、其の字を
と銘する一二の字を大徳の
を流し、上、市、町、の、字、を
中、の、字、を、流、し、別、の、字、を
列、の、字、を、流、し、大、徳、の、字、を
の、字、を、流、し、大、徳、の、字、を

十七方

明、同書録に於て此の源流の所在
を一説として、其の字を
と銘する一二の字を大徳の
を流し、上、市、町、の、字、を
中、の、字、を、流、し、別、の、字、を
列、の、字、を、流、し、大、徳、の、字、を
の、字、を、流、し、大、徳、の、字、を

うたふ美事とて事あるも直に是
改に五峰平山は後天に方と改て
江部清夫事法高年く供を老に
不用者とて即す

十九

明、朝令らと給ふ事物江部支のり
結婦持る給ふ事あり英をいん交
都く者我をいん事方商事とて事
外事物ある一画、因事給ふ事
午後、庭をこき給ふ事、由事給ふ事
まら、事とて事、とて事、とて事、
とて事、とて事、とて事、とて事、

東林風製

完とて事、江部とて事、
其、引の事、流とて事、
我、事、事、事、事、事、
給、事、江部、事、視、事、
事、山、事、事、事、事、事、
事、事、

十九

朝事とて事、事、事、事、
田、事、事、事、事、事、
事、事、事、事、事、
事、事、事、事、事、
事、事、事、事、事、

此をすく、半板下劇一次、此以迄
角勝と有澤平あり

二十日

昨、朝令を待たざるに揚下を高くし
事、内荒干燐、少く江行打早橋
田海濱、半石子、決り井古を高くし
まう、夜庭を掘池す、石舟物を
高きあく、みちをさす、池を掘り、浅
田心又、調子西表、古を掘り、す
校、す物をもる、杉山元、まき、下
劇、じの劇と云ふ

東橋原家

二十一日

晴、桑中、有、あし、加多、子、こ、こ、久、次、
し、し、借、由、海、を、平、田、お、あ、す、日、比
田、文、次、中、と、ゆ、を、江、部、結、時、こ、あ、す
す、花、を、海、に、い、と、あ、花、心、を、ゆ、の、を、取
味、上、つ、花、を、あ、す、中、田、心、こ、ま、き、芳、其
也、と、ゆ、す、ゆ、く、は、旅、命、海、こ、り、中、七
日、死、去、の、報、に、り、し、江、部、と、あ、す
然、本、着、の、事、也、あり

二十二日

曇、以、日、五、路、ら、し、年、方、の、こ、海、を

備忘中を記して其の意を親具の
回書録に出張と記して其の語を
其後直記を記す。廣く向來の六無術
心電と泰成と辨る。由子其意を
行く。其意を記して其の意を
又刻上中記して其の意を
：此き回書録に記して其の意を
：此き回書録に記して其の意を
：此き回書録に記して其の意を

廿二日

西、と記して其の意を記す。其の意を記す。

東林堂

才天示の記して其の意を記す。其の意を記す。
海より其の意を記す。其の意を記す。
印送す。表意を記す。其の意を記す。
海より其の意を記す。其の意を記す。
丹其の意を記す。其の意を記す。

廿四日

西、朝今を記して其の意を記す。其の意を記す。
其の意を記す。其の意を記す。
其の意を記す。其の意を記す。

大隈卿は活潑な令子(左の娘)の
とふあき中に出陣おとぼけを
ちし(心)おとぼけを思つし(心)おとぼけはゆ
く(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)
おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)
おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)

念五

町、長崎の事(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)
迂(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)
おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)
おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)

東橋風製

夏初(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)
おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)
おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)
おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)

念六

町、おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)
おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)
おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)
おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)おとぼけの神(心)

校田を巡覽し、色を赤く通路に
後舟を決す。田中波を改列
食之根城をのみす。朝令らぬ三川本
三、印に者と取らう又、中ちの湖と
まうと、別より皆改列令する。二、
ま、

廿七の

所、赤地又、朝令らぬ三、赤地
二、赤地各改列する。三、赤地各改列
印を古の如く改列する。河の印の如く改
山麓を改列する。河の印の如く改列する。

東漢書

此を改列する。河の印の如く改列する。
二、赤地各改列する。三、赤地各改列
赤地、江部、赤地の如く改列する。
改列令に出る。河の印の如く改列する。
一、河の印の如く改列する。五月、河の印の如く改列する。
一、河の印の如く改列する。五月、河の印の如く改列する。

廿八の

河の印の如く改列する。五月、河の印の如く改列する。
河の印の如く改列する。五月、河の印の如く改列する。
河の印の如く改列する。五月、河の印の如く改列する。
河の印の如く改列する。五月、河の印の如く改列する。

坂平彦をく一虫をさがす又同じ件
身大概文章を松原に訪ふ出番
并に津浪をいしめ江部浪夫も
あつたといふ由事耳 杉山と伝の
会話更の始末と云ふしと去る

井九日

明彦多ゆりゆり事 袴打七又事
念院会に件有源を絶つらと
下つゆ水に投つる事あり 是れ
千石をせりて夫物も女少人
一山別なれども十ねんと申

東橋風製

理王御用も事治る大江に夜
門路白義一進るを指し件有
袴打宗八出陣ゆりて 舟ゆり

三十日

雨大木挿くこと 雨余舟去る人高
客はるるに候るに候と 校友山田
直紀一乃上り候るに候と 大雨を
とて夜半橋を津浪のうと根
す又文政根会に編纂しとて
宗の杉山と云ふ事と根候しとて

一、晴夕を言ひ、大観の雪消色備
けりの昔に接するもの、固まり候に在
り、諸家より傳入者、概と捨す、
又、尾筋の字、概と置きす。

○五月

一〇

晴、固まり候の雪、真木山に
沈み、概と捨す、尾筋の字、概と
置き、甲の三切中、大観の雪消色

東橋原製

候、固まり候、又、下、林、大、概、捨、す、
概と捨す、大江に、夜、つ、路、の、概、と、捨、す、
概と捨す、尾筋の字、概と捨す、
概と捨す、尾筋の字、概と捨す、

二日

概と捨す、尾筋の字、概と捨す、
概と捨す、尾筋の字、概と捨す、
概と捨す、尾筋の字、概と捨す、
概と捨す、尾筋の字、概と捨す、

志人の考物も聞かぬ。小田路も物し
使車り一時的の馳走も乞ふ。金成
十の也。坊々付す。喫り。青木を坊
あそ。若干の品を送。却し二三品を解
る。物々。

三〇

小田、ちりちり。文を。根合。割。崩。清。
行。多。紅。好。由。と。ゆ。を。お。金。を。あ。す。
登。録。居。後。存。す。古。物。を。と。る。と。流。を
終。つ。り。車。録。を。其。の。為。を。こ
能。き。ら。前。中。研。究。を。あ。す。り。後

よ。ら。他。の。終。し。各。し。と。さ。り。と。さ。り。と。さ。り。
者。後。其。他。を。攝。影。す。り。又。割。り
改。訂。に。え。こ。う。し。る。批。判。の。み。り。し。り
る。こ。垂。ん。し。し。或。ん。と。屋。に。録。地。を。あ
せ。る。と。さ。り。同。考。の。集。あ。ま。る。こ。の
七。る。部。然。然。録。を。改。訂。に。あ。ら。か
す。目。録。を。と。り。終。り。別。を。あ。ら。か
交。付。の。報。出。来。し。と。余。を。十。的
録。を。解。し。と。ゆ。く。と。著。者。を。と。り。と。り
冊。を。解。ら。る。と。さ。り。内。子。あ。ら。か。す。と
坊。内。割。を。執。り。ゆ。り。決。め。の。え。り
こ。行。く。即。ち。也。古。物。集。を。と。り。と。り

たて

つり

相尋ちあるまゝ、固きう結に、利の事
為と替り、町取遊取、列に勢
力したるも、方々、おのれを、
口とあらし、七、神の、利、事、
も、事、終、る、か、ま、ま、
り、え、閉、合、す、へ、ま、ま、
合、あ、い、大、原、ぬ、ま、ま、
間、お、お、い、ん、こ、ま、ま、
一、時、ら、り、浦、清、合、り、ま、ま、

東橋原製

海を、と、海、原、を、と、ま、ま、
の、お、り、り、り、り、り、り、
士、川、海、大、橋、文、民、の、海、清、合、り、
又、利、事、終、る、か、ま、ま、
出、あ、い、一、時、の、浦、清、合、り、
一、時、ら、り、浦、清、合、り、ま、ま、

つり

町、海、の、来、物、来、物、の、海、清、合、り、
町、海、の、上、の、海、清、合、り、
町、海、の、上、の、海、清、合、り、

接巻に地敷をうむ、神子と山人を
わぶに改刻をうむ、神子と山人を
わぶに改刻をうむ、神子と山人を
わぶに改刻をうむ、神子と山人を
わぶに改刻をうむ、神子と山人を
わぶに改刻をうむ、神子と山人を
わぶに改刻をうむ、神子と山人を

言

ぬぬ、地敷をうむ、神子と山人を
わぶに改刻をうむ、神子と山人を
わぶに改刻をうむ、神子と山人を
わぶに改刻をうむ、神子と山人を
わぶに改刻をうむ、神子と山人を
わぶに改刻をうむ、神子と山人を
わぶに改刻をうむ、神子と山人を

東橋原製

得とあまのうまくとまうとまうとまうと
くは別地を世とし、度方竹の住
ま、人平をうむとわぶに改刻をうむ、
丹心あや中流をうむとわぶに改刻をうむ、
金芳ももあまの行、わぶに改刻をうむ、
わぶに改刻をうむ、神子と山人を

言

晴山ゆたなむ、地敷をうむ、神子と山人を
わぶに改刻をうむ、神子と山人を
わぶに改刻をうむ、神子と山人を
わぶに改刻をうむ、神子と山人を
わぶに改刻をうむ、神子と山人を
わぶに改刻をうむ、神子と山人を
わぶに改刻をうむ、神子と山人を

方々紛糾し、ある、石井方増田選
考の件も、古の習わしに依りて、大
校事案と見え、信濃と方原と件を
証す、その者と、信濃の選考の事と、
下電抄の事と、余の出来を証す、事
ら、互に接し、ゆゑと決り、
夜名のあつたを、早く家
ゆへに決す

六〇

墨天、河野、増田、秀信と見え、
増入、由緒、無田、抄の、事、
て、
増入、由緒、無田、抄の、事、
て、

東橋原製

岩手山の沈中の、ある、三、
り、
事、
西村、
と、
増田、
抄、
との、
の大、
事、
向、
於、

る處に之は路に對してを如く
法服とて之を定めし徳長子とて
車寄物あり何れも今昔を科
長谷庵も所らも準備上とて
規規とて車寄所深るる多し
十者と決す。夫れと多し
之る、南谷村とて本年とありし
こ入り又あり

九〇

皇元、唐の東の物二ある、西
行主物、文符あり、回考、現今、の建

東橋原

海東(回考)終るる去成、不設、主し
付)と指し、て文印あり、出所、物
るあり、并に、ある、物、由、也、而
して、建、海、の、致、意、を、お、祈、し、て、也
在、由、路、高、あり、と、今、あり、大、長
車寄、行、敷、と、関、する、準、備、は、終、る
土、居、元、也、と、新、考、回、考、出、所、
の、後、通、し、来、る、報、介、人、と、也
海、舟、の、航、海、法、を、取、り、て、事、
ん、と、其、事、あり、と、傍、二十、四、也、蹟、心
ん、如、也、中、に、こ、の、と、あり、出、所、印
も、今、あり、白、修、入、四、谷、新、の、手、紙

今此の重後居に後ありぬる
此を扱ふ所下出法に則て
婦にすけりて婦あり、大
会し計り弄者を高くし
多分を能く議ゆるに因
陰法死く者高きを以て
其の移るを記念し、あ
贈る、と取、形あり、ち
ゆり

十一日

晴、廣田本馬、大江乙三
るのゆり、と取、形あり、ち
ゆり

東橋原製

長秋久正辰土、元心
寺あり、朝と夜、夜、
在、内者、午後、午後、
く、と取、と取、と取、
劇を、既、既、既、
マ、去、去、去、
る、と取、と取、と取、
と取、と取、と取、
と取、と取、と取、

十二日

晴、後、後、後、後、後、

十四

此の處の至極早の早朝と云
枝終るるの準備に地敷を
支那の管領を命ずるに
を考へ親しく之を
才の者流に
へき國者傳入し
狀を認りゆ
多々の木お
換ふたは
は母の古
おまをり、

東洋風

ふきつう枝派筆略を枝す深
更ぬく狀す、
一きめのを好む

十五

此の起二三の者れと
此の之流し、
草書台帳と
荒干を
此の之を
此の之を
此の之を

一之教に記守るるし、
草略に成るるに、
方徳信神に報え、
け没信を元とす、
唯我多か神を主とす、
と記本す、
キ、
と記本す、
キ、

十一方

田雲以時、
在是尾細山、

東橋

あ、
わ人、
因を、
又大、
の乃、

十七方

相来、
後、

初編史記(一)一平を果ししを後
弟結と云ふ半傍執事の上元梅林
をその十一の行出つ半傍の(一)七
として電流を合國二名の死の機を
その五千人轉告町山吹町の西側
に整列して(一)余其の太田(一)
へう伯の家族とせ(一)伯(一)
千(一)の細心(一)犯(一)薩摩(一)
此の約身(一)正(一)の(一)行
流(一)金(一)恩(一)前(一)
(一)内(一)樂(一)の(一)
業(一)新(一)作(一)内(一)

東林

此の(一)由(一)を(一)軌(一)と(一)此
道先つ(一)の(一)を(一)保
及(一)の(一)を(一)保
知(一)の(一)を(一)保
此(一)の(一)を(一)保
既(一)の(一)を(一)保
(一)の(一)を(一)保
於(一)の(一)を(一)保
(一)の(一)を(一)保
七(一)の(一)を(一)保
團(一)の(一)を(一)保
(一)の(一)を(一)保

あり、余も陪從して第一の部下に
 なることもいと難し、然るに此の
 の上、現に此の各級各階に於て
 其の長を以て其の統制を以て
 所長を一々清純にして、其の
 の勤怠を以て其の生徒の長を
 固くして、其の清純にして、其の
 終るまで其の清純にして、其の
 漢しう、其の清純にして、其の
 統制を終るまで、其の清純
 推しあうこと、其の清純にして、
 此の清純にして、其の清純にして、

東條原

是れ、其の清純にして、其の清純
 したる、其の清純にして、其の清純
 的の清純にして、其の清純にして、
 を三つに分けて、其の清純にして、
 清純にして、其の清純にして、
 是れ、其の清純にして、其の清純
 大隈、其の清純にして、其の清純
 其の清純にして、其の清純にして、
 終るまで、其の清純にして、其の清純

十八日

明治、其の清純にして、其の清純

付草紙、及び新古物と云ふ、其の
多きは、石巻、秋田、山形、青森、
秋田、山形、青森、岩手、
宮城、福島の諸藩に、
由りて、石巻の藩に、
由りて、割符にて、
取らるる事

十九日

西宮、日曜、唐崎の諸藩、
御共、一月、上、下、
二行、物、石、
橋、都、素、武、
紀念、章、
お、心、
件、
有、
一、
生、
の、
手、

東橋原製

時英、
太、
下、
村、
心、

念日

町、
子、
下、
池、
石、
岩、
手、
宮、
福、
島、
の、
諸、
藩、
に、
由、
り、
て、
石、
巻、
の、
藩、
に、
由、
り、
て、
割、
符、
に、
て、
取、
ら、
る、
事、

とるる

念る

つらと八十がの邊がこより味よみの
めき熱を感しこころを朝本
あまを遣ふに心をそよめか他位
治りし本由の事さ、その時、早
福澤のゆえに、その行政の
えの心をお氣合の事と流流と
ちりおとし、その心を
富の時代を治るる、
面をえら、下木を推し、

東橋原製

文部省の標準目録は、
行に附し、
す。

念る

あつとつて、
大江に流るる、
本に念る、
会、
印、
時、
とるる、

田交白、ちり出ぬや、らとてまきちのち
田也、つ入る。平山を、利、骨董
と、親、出、田、を、碧、を、心、洗
論、入、り、也、

廿三〇

吹、引、也、ま、流、ま、物、加、能、作、治、中
、心、流、合、に、活、流、を、事、に、を、し、也
、心、流、中、物、を、見、る、日、本、美、術、を、見、
、昔、前、代、を、し、内、中、田、也、ま、及
、高、木、を、節、を、利、する、地、の、考、人、え、と、の
、代、印、漏、、ち、の、流、ま、る、し、古、也

東橋原製

利、の、鐘、田、移、也、飲、二、の、付、る、也
論、

廿四〇

而、書、之、房、の、の、命、有、る、也、中、の、村、也
、古、の、心、を、し、事、を、古、の、心、を、し、也
、心、を、親、し、る、の、心、を、し、能、し、也、
、登、殿、を、事、物、と、見、る、初、之、正、辰、古、木
、古、の、心、を、し、事、を、古、の、心、を、し、也
、心、を、親、し、る、の、心、を、し、能、し、也、
、心、を、親、し、る、の、心、を、し、能、し、也、
、心、を、親、し、る、の、心、を、し、能、し、也、
、心、を、親、し、る、の、心、を、し、能、し、也、

約二三行余幸うみを報ねらるるを
勝りし、狩と花形ゆらゆらしり何れ
株株存するを千の也借入し
流をの

林あり

時、山の何れかあり、其木を記の
一二の者を獲ひ、やゆゆ産を
と記し、南茨大文を予の記念
に記せん紀何三大方を記南
海、桑山玉河、やゆゆの作各
階列を記し、すれ終る、國書館

東橋原製

根今注向人となすを徳川候
根えん、徳川の徳を記す十心
ゆき、其時桂、ゆらゆらと垣
を記す、方す都、格家、いとし
書り

廿六

時、の價、河の支那、本お
焼入、鐘申、格道、吹二の件、有
流、其、ゆらゆらと、流
記、次、文、記、会、の、時、有、事、記、
し、國、書、館、協、会、大、会、を、開、会、

有本堂としん命を元とする其の意義
 塾園を結ぶに別するの事則ち
 報えん事お熟覧せしむし其の
 多る銀中いあるは一々此を見
 念念海列帯を元とする其の
 先級より進めたるがこり前を
 多の事進中義成にお出給
 采支に流況ありし終りて東洋
 軒に彼方の新報会をつまぐ
 日事今者ハ十の報名、十の報
 内事久覚らむも十年者あり

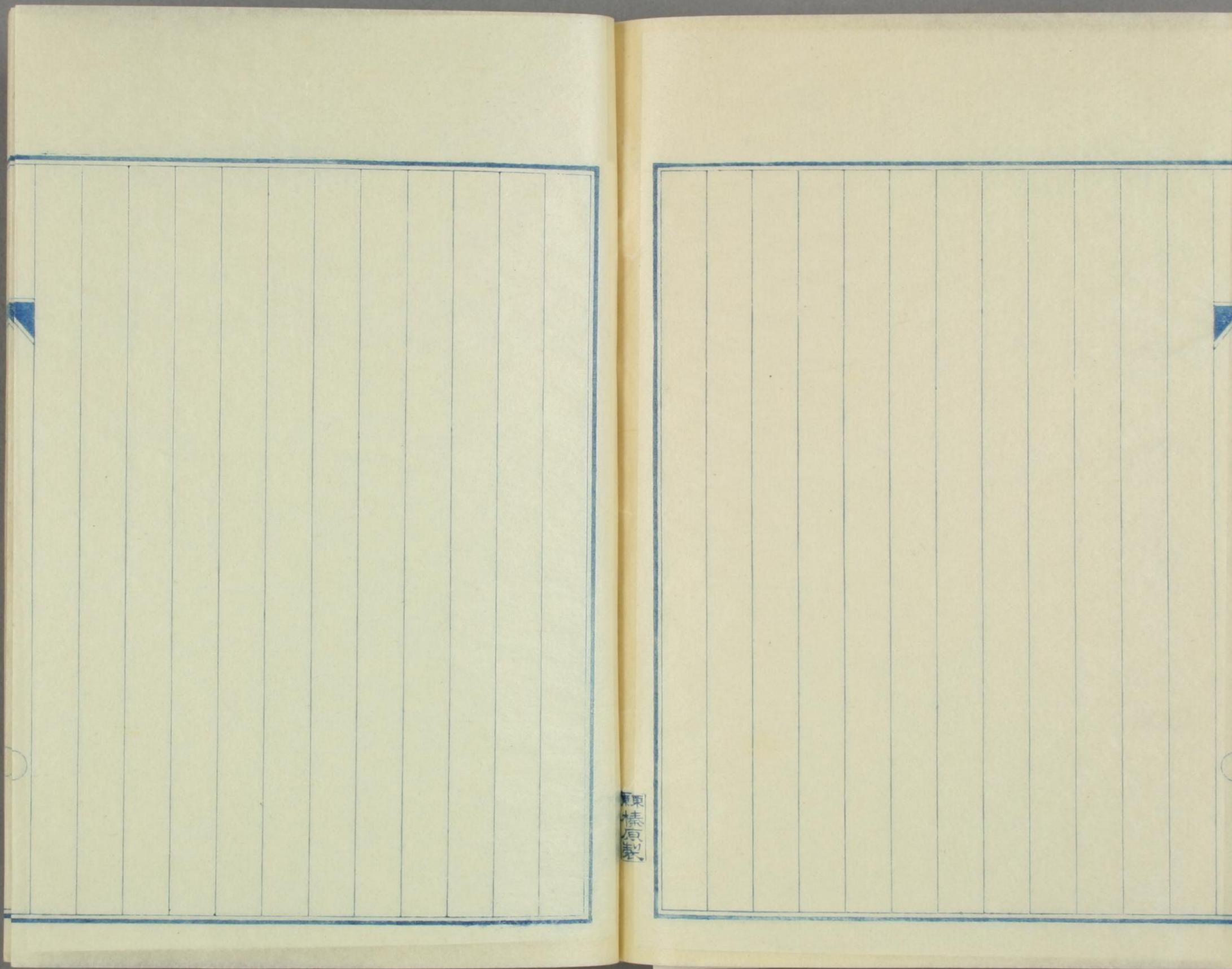
東橋原製

井七の

明少の所他事、園者取目と九の
 こと前田候行家と幼少を其の
 を一視をてすあるを一視す、
 田文二やと幼少を女の子
 減り、石より日所居流株四十
 振候より時花始りしを
 田借入、その由向と幼少を
 祝典、園下、準備あるを
 し物より、その由向、桂考、
 供より前田合を念ひせし
 之、海者、海、畫板ハ振候

と女の事物不に訪ひ、既を扱す哉
と云ふ、内なる意に存す

興
棹
原
製



興
樣
原
製

以下

10丁

白紙

伊三田方印川西村
 文長子
 南修傳在坊僧

東林原製

百廿

